



地域で輝く
ふくしのチカラ
大賞
グランプリ

公益的取組事例集



主催 栃木県



目次



- 1 あいさつ
 - 2 地域で輝くふくしのチカラ大賞 グランプリ 概要
 - 3 受賞者概要
-
- 4 取組紹介
 - 5 最優秀賞 スマイルきくさわ(第2層協議体)
『住民主体の移送サービス「きくさわスマイル号」の運行』
 - 6 優秀賞 特定非営利活動法人プロジェクト宙
こどものまちミニかぬま実行委員会
『こどものまち「ミニかぬま」(子どもの社会体験事業)』
 - 8 優秀賞 南押原友遊館管理運営協議会
『閉館となった児童館を活用した多世代サロンを始めとした居場所づくり支援』
 - 10 特別賞 特定非営利活動法人ナチュラル
『大田原日曜朝市』
 - 12 特別賞 にしなすケアネット
『地域ケア会議×協議体』
 - 14 エントリー団体・取組紹介
-
- 15 おしらせ



あいさつ

我が国の社会保障制度は、子ども・高齢者・障害者などの対象者や生活に必要な機能ごとに、公的支援制度の整備と充実が図られ、人々の暮らしを支えてきました。

しかしながら、地域では、人口減少や少子高齢化の進行といった地域社会の変容等に伴い、地域を支える担い手が減少し、地域の活力低下や持続可能性が脅かされていることから、これから社会の活力維持・向上を図るための対応が求められております。

また、こうした背景から、育児と介護を同時に抱える「ダブルケア」や、80代の親と50代の無職等の子が同居する「8050問題」など、個人や世帯が抱える課題が多様化・複雑化するケースや、日常生活に身近なごみ出しや買い物など、現在の公的支援制度では解決が困難な「制度の狭間」にあるケースが顕在化してきました。

このため、国では、「子ども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる《地域共生社会の実現》」を改革の基本コンセプトとし、社会福祉法をはじめとする社会福祉関係制度の改正が進められております。

こうした中、栃木県では、社会福祉法人が行う「地域における公益的な取組」をはじめ、多様な主体が実践する地域のニーズに応じた様々な支え合い活動が、「地域共生社会の実現」に大きく資するものであると考え、優れた取組を行う法人・団体等を表彰し、活動内容を広く発信することによって、地域における支え合いが県内で幅広く展開されるよう、「地域で輝くふくしのチカラ大賞(グランプリ)」を実施することといたしました。

このたび第3回となりました本事業にエントリーされた法人・団体等の取組につきましては、地域の様々な関係者と協働して取り組まれている活動などをはじめ、社会福祉法人やNPO法人等の皆様が、その地域のニーズを的確にキャッチしながら、創意工夫をこらして取り組まれている素晴らしいものでした。

社会福祉法人をはじめ、福祉に携わる皆様方におかれましては、本事業の趣旨を御理解いただき、地域の多様な主体による新たな参画に当たっての参考にしていただければ幸いです。

栃木県保健福祉部長 仲山 信之



地域で輝くふくしのチカラ 大賞 - 事業概要 -

ロゴマーク



対象となる取組

社会福祉法第24条第2項に定める「地域における公益的な取組」のほか、地域のニーズと地域における社会資源の有無などを踏まえつつ、自主性・創意工夫に基づき実施する地域における支え合いや助け合い等、「地域福祉の向上」や「地域共生社会の実現」に資する取組を対象とします。

対象団体

- (1) 県内に本部を有する社会福祉法人
- (2) 県内に本部を有し、福祉サービスを行う特定非営利活動法人・一般社団法人
- (3) 県内を主たる拠点として活動する任意団体等

応募結果と審査について

評価項目

応募受付期間

令和3(2021)年9月10日(金)～11月30日(火)

応募件数

23団体 36事例

審査機関

地域で輝くふくしのチカラ表彰委員会

委員長 赤羽 幸雄

1 地域連携・貢献度

2 創意工夫

3 独自性

4 成果

5 発展・継続性

地域で輝くふくしのチカラ大賞 実践フォーラム

日程 令和4(2022)年2月15日(火)

特別講演

会場 栃木県総合文化センター 特別会議室
Zoomウェビナー形式による配信

「地域共生社会と社会福祉法人等の
地域貢献活動について」

プログラム

第1部 表彰式

講師

第2部 受賞団体 事例発表

文京学院大学 人間学部

第3部 特別講演

教授 中島 修 氏

- 厚生労働省社会福祉推進事業
地域における公益的な取組に関する委員会委員長
- 全国経営協社会福祉法人連携推進委員会委員

受賞団体



後列 左から特定非営利活動法人ナチュラル／南押原友遊館管理運営協議会／にしなすケアネット
前列 特定非営利活動法人プロジェクト宙 こどものまちミニかぬま実行委員会／ふくしのチカラ大賞表彰委員会 委員長／
栃木県保健福祉部 部長／スマイルきくさわ(第2層協議体) 敬称省略

最優秀賞

スマイルきくさわ(第2層協議体)
鹿沼市

住民主体の移送サービス「きくさわスマイル号」
の運行

優秀賞

特定非営利活動法人 プロジェクト宙
こどものまちミニかぬま実行委員会
鹿沼市

こどものまち「ミニかぬま」
(子どもの社会体験事業)

南押原友遊館管理運営協議会
鹿沼市

閉館となった児童館を活用した多世代サロンを
始めとした居場所づくり支援

特別賞

特定非営利活動法人 ナチュラル
大田原市

大田原日曜朝市

にしなすケアネット
那須塩原市

地域ケア会議×協議体

住民主体の移送サービス「きくさわスマイル号」の運行

スマイルきくさわ(第2層協議体)



取組をはじめたきっかけは何ですか？

菊沢地区の『支え合いの地域づくり』を推進するために「地域住民が主体となって話し合い、協力し合い、あらゆる世代が集い、誰もがつながり支え合う地域を目指すこと』を目的に、「スマイルきくさわ(第2層協議体)」を発足しました。高齢者の困りごと調査では、「買い物・送迎」など、移動や外出に困っている高齢者がたくさんおり、高齢者が、慣れ親しんだ地域で生活していくにはどうしたら良いのかを考え、外出が困難な高齢者のための移動・外出支援を目的に、令和2年1月から「きくさわスマイル号」の運行を開始しました。

どんな取組を行っていますか？

住民による助け合いで運行しているため、利用登録料として年会費2,000円(利用者の保険等の費用)、利用料金は1人1回200円を基本(令和4年3月現在)とし、ガソリン代等の実費程度としています。低料金であるため、利用者は移動・外出が困難な菊沢地区在住の概ね75歳以上の高齢者に限定し、更に、高齢者の個別実態を把握している民生委員・児童委員が利用申し込みを受け付けることで、身体的、経済的にサービスが本当に必要な人へのアプローチを行う仕組みを構築しています。「スマイルきくさわ(第2層協議体)」は、事業の検討

段階から、自治会協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連絡協議会、地区内の社会福祉法人等や社会福祉協議会と多方面の地域住民が参画しています。

また、住民主体の運営を持続していくために、実働部隊として、『きくさわスマイル号実行委員会』を組織し、実行委員と多くのボランティア(17名/令和4年3月現在)が地区内から参画して事業を実施しています。車両を地区内に事業所を置くNPO団体からご提供いただき、地区内の個人タクシー事業者や自動車教習所に協力を得て「安全移送講習会」や「安全運転講習会」を開催するなど、事業者との連携も図れています。

取組を行う際のポイント

民生委員・児童委員が加わり、住民が主体で動き、行政が包括的にバックアップするという体制がうまくいったポイントだと思います。

また、住民主体の移送サービスはドライバーを集めるのが難しい場合も多いと思いますが、菊沢地区では、ありがたいことに無償ボランティアの方が多く集まってくれました。そこには「いずれは自分もお世話になるから、この仕組みがあったら助かる」という思いがあります。みんなが「自分事」として捉えてこの活動を続けています。

配車係の力も大事です。基本的には予約制ですが、天候やコロナ対策、利用者さんの勘違い等で当日変更

せざるを得ない場合もあり、急な変更にも対応出来る体制を取っています。

さらに、ドライバーは毎日運転記録を付けており、事務局は、その日にあった事や課題をLINEで共有し、改善に努めています。会議や書面では対応が、1週間後や1か月後になってしまいます。改善が遅れると、士気が下がりますが、その日の内に共有し、PDCAサイクルをしっかり回していることもポイントです。

地域の方も協力的で、自動車整備士さんが車の故障を無償で直してくれたり、ガソリンスタンド店では値引きをしてくれたり、本当に色々な方が協力して下さり助かっています。そして、何より利用者さんがすごく喜んでくれるので、楽しく活動出来ています。

これからの活動について

私達は、規模を拡大する事は全く考えていません。本当に手伝わなくてはいけない方やこのサービスを必要としている方へきちんと浸透させることを目指しています。きくさわスマイル号の活動を長く続けるために新しい仲間も増やしていきたいです。

また、スマイルきくさわが目的とする「地域住民が主体となって話し合い、協力し合い、あらゆる世代が集い、誰もがつながり支え合う地域」を目指し、移送サービスに留まらず、利用者や地域住民の声を聴きながら、誰もが何歳になっても、地域で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたいです。

『住民主体の移送サービス』を始めて2年。
住みよい菊沢地区を目指し、力を合わせ取り組みたいと思っております。



『住民主体の移送サービス』を始めて2年。免許を返納して車に乗れない、買い物の荷物が重くて歩けない等の切実な悩みを抱えていた利用者には、大変助かると好評です。ボランティアからも地域のお手伝いが出来ると喜びの声をいただいています。『支え合いの地域づくり』には、まだまだ、たくさんのテーマがあります。住みよい菊沢地区を目指し、力を合わせ取り組みたいと思っております。

スマイルきくさわ(第2層協議体)代表 紺野 勝寛

団体概要

団体名 | スマイルきくさわ(第2層協議体)

所在地 | 鹿沼市御成橋町2丁目2197-1

代表 | 紺野 勝寛

事業内容 | 支え合いの地域づくり事業

評価のポイント

現在、高齢化の進行により交通機関の課題が生じている中、自治会や民生委員、地域のボランティアなど様々な関係者が連携・協働しながら取り組まれている点が、最も高く評価されました。

また、今後も高齢化が進む中において、こうした取組は、高齢者など交通機関の利用が困難な方をはじめ、地域住民の安心した暮らしにつながるものと考えます。

住民主体の移送サービス「きくさわスマイル号」

- ◆場 所 菊沢コミュニティーセンターを中心に半径約5km以内の病院やスーパーまで運行
- ◆実施日 月～金曜日 9:00～16:00
(土日祝、年末年始を除く)
- ◆費 用 利用登録料 年会費2,000円※保険料含む
利用料金 1人1回200円(往復)
※目的地まで30分以上掛かる場合は+100円
目的地の追加は+100円[令和4年3月現在]
- ◆対 象 菊沢地区在住の概ね75歳以上の高齢者の
方で介護、付添の必要がなく、公共交通機関
等を使って移動、外出が困難な方



移送サービスの様子

子どものまち「ミニかぬま」(子どもの社会体験事業)

特定非営利活動法人プロジェクト宙
子どものまちミニかぬま実行委員会



取組をはじめたきっかけは何ですか？

地域の子どもたちのために、何かできる事はないかと考えていた際、「子どものまち全国サミット」の存在を知りました。「子どものまち」とは、子どもだけが市民になり、自ら運営する仮想のまちで働き、遊びながら社会の仕組みを学ぶプログラムで、「社会の仕組みを知るきっかけになる」と同時に「多角的に物事を見られるようになる」という効果があると言われており、全国各地で開催されています。

そこで、2009年頃から有志の間で検討が始まり、「子どもの社会体験を通して、子どもの生きる力を育み成長に寄与すること」を目的として、2011年5月に『子どものまちミニかぬま実行委員会』を設立し、2011年7月に第1回子どものまち「ミニかぬま」を開催しました。

どんな取組を行っていますか？

第1回目は、震災の影響で7月開催でしたが、鹿沼市においては、毎年3月の春休みに3日間開催しています。

子どもたちをこの小さなまち「ミニかぬま」の中で一人の市民として扱い、自分のやりたい仕事を選び、稼いだお金で好きなものを買ったり、遊んだりしながら、この体験を通して子どもの生きる力を育み、成長に寄与することを目的としています。

「ミニかぬま」に参加する子どもたちの過ごし方は自

由です。いろいろなお仕事にチャレンジしてもいいし、のんびり過ごしてもOK!自分の想いで遊びます。店長になれば自分のお店が持て、売る物の値段から、売れない時の工夫も全部自分で決めます。ハローワークもあり、そこでスタッフを雇うこともできます。他にも、銀行や税務署、市長選もあり、色々な社会の仕組みが凝縮しています。

実行委員会は、NPOスタッフが中心となり、大人15名と子ども運営スタッフ10名で構成していますが、実行委員会や運営には保護者を入れず、子どもたちを庇護というしばりから自立して、一人前のメンバーとして扱い、親とは異なる大人とのふれあいや、共通の目的に向かって行動することで、成長することを期待しています。子どもたちは、実行委員としても、店長としても責任ある役割を担うことで成長し、また、高学年の子が低学年の子をフォローする姿に、大人たちは「子どもは想像以上にいろんなことができる」「一歩引いて待ってあげればいいんだ」という事に気付き『大人は口出し禁止』という“子どものまち”に共通する大原則に基づき、その距離感に悩みながらも子どもを信じる大切さを学びます。

「ミニかぬま」は、子どもたちだけでなく、大人も一緒に育つことができる体験事業になっています。

取組を行う際のポイント

子どもたちの「ミニかぬま」が好きという気持ちを大切に、参加した子どもが楽しく過ごせる工夫を子どもと一緒に考えています。自分は何をするのかという主体を形成することを軸にしていますので、ただ子どもの自由にするのではなく、どのように考えたのか、その理由や背景を考えさせ、自分さえ良ければ良いという思考ではなく、自分以外の高齢者、幼児などに対する配慮を考えさせ、多角的に物事を見られるように工夫しています。

また、実行委員会は、毎回新たに結成し、組織化することによって、実行委員の負担が大きくならないように、役割分担して進め、月1回会議を行い、目的と役割を確認して前に進めています。

これからの活動について

当初から、他の活動団体から学びつつ交流を深めてきました。2013年から「こどものまち全国サミット」に参加し、全国の仲間と経験を交換して、ともに活動の発展を期しています。2020年には鹿沼市での開催も予定していましたが、コロナの影響で無期限延期となっているため、今後の状況を見ながら実施したいです。

私たちは、こどものまち「ミニかぬま」事業を通じ、人として大切な心や生きる力を育むことを発展的に展開してきました。今後も、当法人の他の活動(学童保育クラブや長期休み中の居場所事業)とリンクさせつつ、さまざまな形で子どもたちの笑顔あふれる体験活動と教育を重視したプログラムを実施していきたいと思います。

今後は、大学生や高校生の実行委員たちとともに、
ポストコロナの「こどものまち」を模索していきたいと思っています。



新型コロナの拡大に伴い、「こどものまち」は2020年度から実施できていません。この3月には代替する事業も企画しましたが、中止を決めました。この最中に「第3回地域で輝くふくしのチカラ大賞」優秀賞をいただいたことは、実行委員会の大きなモチベーションとなりました。心からの感謝を申し上げます。

今後は、大学生や高校生の実行委員たちとともに、ポストコロナの「こどものまち」を模索していきたいと思っています。

特定非営利活動法人プロジェクト宙 理事長 廣瀬 隆人

団体概要

法人名 | 特定非営利活動法人プロジェクト宙 こどものまちミニかぬま実行委員会

所在地 | 鹿沼市玉田町60-2

代表 | 理事長 廣瀬 隆人

事業内容 | 子どもの体験活動や子育て拠点づくり事業、

学童保育クラブ事業、長期休み中の居場所事業 等

評価のポイント

子どもたちを実行委員会メンバーとし、社会の一員として捉えるとともに、あえて実行委員会や運営に保護者は入れず、この活動を通じて子どもたちの主体性や自立、成長を促す取組であることが、高く評価されました。

こうした取組は、将来に向けて、次世代を担う子どもたちの大きな自信につながることや、地域の大きなチカラとなるほか、コロナ禍で子どもたちの様々な学ぶ機会や体験する機会が失われている中で、大変有意義なものであると考えます。

こどものまち「ミニかぬま」

◆場 所 鹿沼商工会議所アザレアホール

◆実施日 每年3月 春休み中の3日間

◆参加人数 概ね延べ1200人程度

◆実行委員 大人15名子ども運営スタッフ10名で構成
(子どもたちを一人前のメンバーとして扱う)



「ミニかぬま」
ミュージアムの様子

